

発行

みなとしみず

国土交通省中部地方整備局
清水港湾事務所
 御前崎事務所/下田事務所/田子の浦事務所
 静岡市清水区日の出町7番2号
 TEL. 054-352-4146(代表)
<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>

～CONTENTS～

- ・おめでとうございます～「港湾関係功労者等表彰式」～
- ・県内初認定 みなとまちづくりマイスター(御前崎)
- ・清水港・みなと色彩計画 25周年記念事業
- ・夏のイベントに出展
- ・清水港湾事務所防災訓練を実施
- ・夏休み、親子で楽しむ！清水港見学会を開催
- ・「あさひなっ子通学合宿」御前崎港内体験学習を開催
- ・シリーズ「クルーズ船プロフィール」⑦(全7回)
- ・シリーズ「モノから見える清水港」③(全5回)

おめでとうございます ～「港湾関係功労者等表彰式」～

7月21日(木)、清水マリビルにて『平成28年度「海の日」式典』が開催され、港湾振興発展、環境保全などに貢献された23人(団体含む)の功績をたたえ表彰等を行いました。受賞者は以下のとおりです。

国土交通大臣表彰

○海事関係事業功労

青木建設株式会社代表取締役 佐野 茂樹 様

中部地方整備局長表彰

○港湾振興発展

前 御前崎市長 石原 茂雄 様*

前 田子の浦漁協代表理事組合長

外山 廣文 様

○永年勤続

大石建設株式会社 工事部参事 櫻井 保 様

有限会社 伊豆海洋 濱浦 篤 様

○港湾建設功労(優良工事・業務)*

鈴与建設株式会社 様

中電技術コンサルタント株式会社 東京支社 様

○港湾建設功労(優良工事・業務技術者)*

鈴与建設株式会社 平野 暁 様

中電技術コンサルタント株式会社 東京支社

日高 康之 様

※ 中部地方整備局長による港湾建設功労者表彰者は、豊橋市・名古屋市内にて表彰されました。



◀外山 廣文様▶



◀集合写真の様子▶

清水港湾事務所長表彰

○海をきれいにするための一般協力者

有限会社シーフロント 様

株式会社本間組 名古屋支店 様

株式会社鈴木土建 様

共和建設株式会社 様

相良建設株式会社 様

○港湾建設功労(協力会社、有能技術者)

日本国土開発株式会社 静岡営業所 富田 陽一 様

株式会社花村組 高野 貞臣 様

井上工業株式会社 東海支店 松田 健作 様

有限会社平野潜水工業所 青木 一郎 様

○港湾建設功労(優良工事)

みらい建設工業株式会社 中部支店 様

○港湾建設功労(協力会社)

日本国土開発株式会社 静岡営業所 様

株式会社花村組 様

井上工業株式会社 東海支店 様

有限会社平野潜水工業所 様

(順不同)

県内初認定 みなとまちづくりマイスター（御前崎）

8月3日（水）、「一般社団法人 御前崎スマイルプロジェクト」の代表理事の石原智央氏が「みなとまちづくりマイスター※」に静岡県内で初めて認定されました。

石原代表理事は、プロのウィンドサーファーで日本チャンピオンに4度輝いています。現在は、同法人の代表理事として御前崎の海の防犯パトロールやマリンスポーツを通じて海の大切さを伝える海洋教育に積極的に取り組まれています。また、昨年8月に県内で3港目に認定された「みなとオアシス御前崎」において「渚の交番」の運営もされています。

この様な地域貢献や住民、特に若者への長年にわたる啓発活動が高く評価され、マイスターの認定とともに「国土交通省港湾局長賞」も受賞されました。

国土交通省菊地港湾局長は、「培ったノウハウや経験を活かし、引き続き港まちづくりに貢献・尽力して頂きたい」とエールが送られ、石原代表理事は、「より一層、地元の発展に力を注ぎたい」と抱負を述べられました。

※ 「みなとまちづくりマイスター」制度は、みなとまちづくりを通じて地域の賑わいの創出や地域の活性化などの成果が得られた事例において中心的な役割を担った方の中から、他の模範としてふさわしい方を、(社)ウォーターフロント開発協会が「みなとまちづくりマイスター」として認定するとともに、港湾局長がその功績をたたえて表彰し、みなとまちづくりに関する助言や事例の紹介を行っていただくものです。(平成20年度より創設)。



《菊地港湾局長から表彰を受ける石原代表理事》

清水港・みなと色彩計画 25 周年記念事業

9月2日（水）、清水港及び清水文化会館(マリナート)にて、「清水港・みなと色彩計画※25周年記念事業」が開催され、清水港の美しい景観を創りあげてきた25年間にわたる同計画の取組を振り返り、「美しいみなと宣言」と共に未来に向けたメッセージが発信されました。

午前中に行われた清水港海上見学会では、224名の方が色彩計画に沿って塗り替えられた数々の構造物と自然の風景が織りなす美しい清水港の景観を楽しみました。

午後に行われた記念式典では、神戸、長崎の観光大使、清水の地元学生(地元出身者含む)による「日本三大美港～清水・神戸・長崎をつなぐ みなとまち交流会」が開催されました。

観光大使からは、それぞれの港の特徴や魅力が紹介されました。清水港からは、東海大学生による「『折戸潮彩公園』づくりが育んだ地域とのつながり」、現筑波大学生(静岡高校卒)による「江尻タンクデザイン優秀賞」が紹介され、参加者218名の心に残る、オープニングに相応しいアトラクションとなりました。

また、来賓の望月義夫衆議院議員、菊地国土交通省港湾局長、難波静岡県副知事、田辺静岡市長より長年に渡る同取組へのねぎらいと称賛の祝辞をいただきました。

記念講演では、東京工業大学環境・社会理工学院 齋藤潮教授による「美しい港湾都市のために」、東海大学海洋学部環境社会学科 東恵子教授による「色彩計画四半世紀共創の取組み」が講演され、港景観の歴史や重要性、長い時間をかけ共創してきた清水港の美しい港景観の意義と価値について再確認する場となりました。

式典の最後では、清水港の魅力を語るビデオメッセージと共に、大学生2人による「美しいみなと宣言(共創して創りあげてきた美しい景観を未来へと繋げるためのメッセージ)」が披露され、意義深く感動的なエンディングとなりました。



《記念祝賀会 集合写真の様子》

※ 「清水港・みなと色彩計画」とは、世界に開かれた静岡の海の玄関口である清水港において、富士山と調和した港湾景観を創出するため、平成3年度に策定されたもので、これに基づいて、市民・企業が主体となって美しいみなとまちづくりの活動が継続的に進められています。色彩計画は、これまで清水港の進化と共に歩み続け、今年で四半世紀、25年の節目を迎える地域を代表する取組となっており、平成27年度国土交通大臣表彰「手づくり郷土賞大賞部門」に認定されています。

夏のイベントに出展

～踊夏祭～

7月17日(日)、焼津市大井川地区の大井川港特設会場にて「第16回踊夏祭(おどらっかさい)」が開催されました。

踊夏祭は旧大井川町の時代から毎年開催されている一大イベントで、「おどらっかコンテスト」「フリーステージ」「市民総踊り」など踊りをメインとして開催されました。今年は市内外から56チーム、1007人が集まり、踊りを披露しました。

踊りの他にも、ご当地シャツ焼津ファッションショー、NEXCOによるリフト車の乗車体験、みなとオアシス紹介ブース、第11回大井川港トリアスロン大会、三ヶ日手筒花火なども行われました。

当日は3万人の来場者数となり、当事務所からも港の役割や防災関連のパネル展示、港湾業務艇「ふじ」による大井川港の港内見学(乗船者は延べ70人)の支援を行いました。



《踊夏祭のブース展示の様子》



《港湾業務艇「ふじ」による港内見学の様子》

～御前崎みなと夏祭 2016～

8月6日(土)、マリパーク御前崎において「御前崎みなと夏祭 2016」が開催されました。当事務所からも、「みなとオアシス」の紹介パネル展示や、模型による「防波堤の整備効果」の体験を行いました。

御前崎みなと夏まつりは、「御前崎の夏」の体験を通じて海の魅力や自然への敬意を多くの皆様と共有できるイベントで、御前崎市民によるステージパフォーマンス、渚の盆おどり、アロハオマエザキなどが催され、夜にはメインイベントである花火が打ち上げられました。

当日は多くの市民が参加し、主催者の発表では約5,000名の方が来場しました。



《ブース出展の様子》

清水港湾事務所 防災訓練を実施

「防災の日」の9月1日(木)、当事務所において全職員による津波避難訓練、災害発生後の初動対応訓練、機器操作訓練が行われました。

当事務所地域は、津波により浸水する恐れがあることから、屋上の避難場所へ避難するとともに、災害対策支部を設置し、初動対応を確認する等、防災基本計画に基づく迅速な対応が求められています。

「地震発生!」のアナウンスとともに始まった防災訓練。地震後の津波襲来に備え、揺れが治まるのを待って、一斉にヘルメットをかぶり、屋上に避難し、命を守る意識を持ちました。

その後、防災会議室にて初動対応訓練を行いました。国の出先機関として事務所BCP(事業継続計画)に沿って即座に対策支部が設置され、安否確認の報告、庁舎・宿舍被害状況の報告、初動対応を確認し、改善点や見直しについて議論しました。

最後に機器操作訓練として、災害時には、港全体の安全確認に使用される施工監視カメラの操作等について、全職員で確認しました。

我々はこれからも様々な災害を想定した訓練等を行い、有事に備えてまいります。



《高層階へ避難している様子》



《支部体制構築訓練の様子》

「夏休み、親子で楽しむ！清水港見学会」を開催

8月19日（金）、港について、地元の皆様に理解していただくため、夏休みの恒例イベントである「親子見学会」を（一社）清水建設業協会と共催しました。見学会には静岡市内在住の小学生親子（9組20名）の方が参加しました。

今回は、国際拠点港湾である清水港の役割や港湾施設を造る建設業界の主な事業概要などの説明に加え、模型を使った防波堤の効果実験、港湾業務艇「まさき」による港内見学、エスパルスドリームプラザの観覧車「ドリームスカイ」への乗車など、様々な角度から清水港を見学しました。

港内見学では、コンテナターミナルや防波堤、冷凍マグロの水揚げ、LNG船など、普段はなかなか間近で見ることのできない港湾施設や船を見て、「あれがさっきの実験のやつだ！」「船って思っていたよりすごく大きい！」といった声があがり、実際の姿に驚いていました。また、観覧車では、子供からは「楽しかった！」「景色がよかった！」、大人からは「事前の説明や船内での説明があったから、わかりやすく清水港内を見ることが出来た。」と、親子共に満足した様子でした。

参加者からは、「貴重な体験をすることが出来た。」「海と空の両方から清水港を見られて楽しかった。」「マグロの水揚げが見ることが出来て嬉しかった。」「清水に住んでいるけど知らないことをたくさん知ることが出来て良かった。」などの感想が寄せられました。清水港と建設業への理解が深まった良い取り組みとなりました。



《防波堤の効果実験の様子》



《港内見学の様子》



《観覧車乗車の様子》

「あさひなっ子通学合宿」御前崎港内体験学習を開催

7月23日（土）、御前崎市立浜岡北小学校区内にある朝比奈公民館主催の「あさひなっ子通学合宿」のカリキュラムとして、小学4年生～6年生の49名及び主催者である朝比奈公民館7名の合計56名が、御前崎港内を港湾業務艇「ふじ」に乗船し、体験学習に参加していただきました。

同合宿は、7月21日（木）～23日（土）の3日間の予定で、当日は最終日に当たり、朝8時より御前崎港に足を運んでいただき、4班に分かれて体験乗船、「なぶら市場」周辺施設の見学等を交互にいただきました。

体験乗船は、御前崎魚市場前から出発、マリパーク御前崎では、海水浴客が既に遊んでいる姿も見られ、防波堤（東）では、「見える部分は極僅かでも水面下には大きな構造物が構築されている」「防波堤の外側に並ぶ大きなテトラポッドは、重量が80t、高さは5mである」など防波堤の構造や役割を説明すると、驚いた様子を見せていました。御前崎港の国際コンテナターミナルでは、ガントリークレーンの高さ、吊上げ能力等を説明、クレーンの操縦席下はガラス張り、操縦者は約50mの高さにおいて作業をされていることなどを紹介しました。

最後に、海の環境保護のため、ペットボトル等のプラスチックゴミは、川や海にポイ捨てしないよう協力をお願いし、体験学習を終了しました。

本日の学習を通し、海、港の重要性、環境保護の大切さを認識していただき、今後も海、港に興味、感心を持っていただければと願っております。



《体験学習 集合写真》



《船内における聴講の様子》

シリーズ「クルーズ船プロフィール」⑦(全7回)

クルーズ船プロフィール最終回は、日本のクルーズ船「ばしふいっくびいなす」をご紹介します。

日本クルーズ客船(株)が所有する「ばしふいっくびいなす」は1998年に就航した3隻ある日本船籍のクルーズ船の中では一番新しい船です。全長183.4m、総トン数26,594トン、12層の船体は、飛鳥Ⅱに次ぐ大きさですが、大型化する海外のクルーズ船から見るとコンパクトな船体です。旅客定員620名、238の客室は、すべて海側に面しているため、大型クルーズ船のように窓のないインサイドの部屋がありません。コンパクトな船体は、クルーズの際に大型船では入港できない港や、埠頭に入港接岸出来るというメリットがあります。また外洋での揺れを軽減する為、船体側面に「フィンスタビライザー」という格納式の横揺れ防止装置が設置されています。通常時は水流抵抗になるので船体に収納されていますが、船体側面の左右から魚のヒレのような小型の翼を出して揺れを軽減します。

「ばしふいっくびいなす」は5階にフロントがあり、港の設備や干潮、満潮の差にも寄りますが、この階がエントランスになる場合が多いです。フロントのあるエントランスロビーは3層吹抜けの螺旋階段で囲まれていて開放的な空間になっています。螺旋階段を上った7階には、メインダイニングやピアノサロン、ダンスフロアのあるメインラウンジなどのパブリックスペースがあります。バルコニーのあるスイートルーム専用のダイニングもこのフロアにあります。8階には2層吹抜けのメインホール、10階後方には、広々としたスポーツデッキもあり、様々なイベントに使われています。プールやジムなども完備して居り、世界一周クルーズなどの長期クルーズや、貸し切りのチャータークルーズ船としても利用されています。

日本船の特徴としては、9階に茶室と11階には展望浴室があります。クルーズ船の客室は、限られた船内を効率よく有効利用する為、バスタブは一部上級客室に設けられ、シャワーのみの船室が多くなってしまいます。海外の大型船ではプールエリアなどにある複数のジャクジーをバスタブ代わりに使っている乗客をよく見かけます。水着着用のジャクジーでは、体は温められますが、やはり日本船ならではの大きい湯船の開放感とは格段の違いがあります。また長期のクルーズの際には、どうしても洗濯物も気になります。船によって有料のランドリーサービスのみで、乗客が使用できるランドリーが無かったり、セルフランドリーがあっても有料の場合が多いのですが、無料のセルフランドリーが客室のあるフロアに設けられているのも、嬉しいサービスです。

「ふれんどしっぷ」のキャッチフレーズの通り、クルーズ出港時から、船長を始めとするクルーたちの気取らない温かいサービスが多くのリピーターが乗船するポイントになっています。

クルーズの場合、出入港の時間が限られているので、出来るだけ利便性の良い場所に接岸出来れば、乗客が上陸して観光や買い物等に費やす時間が増えます。港の水深が浅かったり、橋の高さ制限がある場合などの理由で、クルーズ船も貨物専用の埠頭に接岸する場合も多いのです。清水港は大型船でも利便性の良い埠頭に接岸出来るので、乗客やクルーからも評判が良いのです。また、クルーズの出港、帰港する港の場合、乗客の見送りやお迎えなどに来る人々やブラスバンド演奏などで盛り上がるのですが、清水港の場合は、街に近い港という事もあります。これだけ盛大な歓迎をする場所は、あまり記憶にありません。以前横浜港から乗船したクルーズでは、



横浜以外での出入港時のセレモニーが低調で、ほぼ無い港もありました。清水港入港時は、右に富士山、左に三保の松原を見ながらになります。この日は曇りで富士山は微かに見えるのみで、デッキに出ていた乗客も残念な声が出ていましたが、日の出埠頭付近に多くのテントやブラスバンドの音、多くの人たちが出迎えている様子を見つけると、乗客からは写真やビデオを撮ったり、歓声があがったりして、感動的な入港シーンになりました。昨年「クルーズ・オブ・ザ・イヤー2015 特別賞」に清水港が受賞したのも、多くの人達がクルーズ船を温かく出迎える姿勢が評価されたに他ならないと思います。

<全長 183.4m 総トン数 26,594 トン 旅客定員 620 名>

このシリーズは県内で知る人が少ない「クルーズ船」について取材をしてこられた山口氏の寄稿によるもので、今回は連載最終回です。山口博史(やまぐちひろふみ) 昭和 43 年、静岡市清水区生まれ。フォトグラファー、テレビ撮影技術スタッフ。2012年より14年までクルーズ番組を撮影。取材では主にアジア・ヨーロッパなどでクルーズ船に乗船した。

シリーズ「モノから見える清水港」③(全5回)

アマダくじと手鉤

さて、今回はフェルケール博物館の常設展示室の中でも特徴のある資料を紹介します。

清水港の港湾作業で実際に使われた“アマダくじ”と呼ばれる道具があります。この道具は、数十本のロープを根本で束ね、根本付近には金属製の輪環（わっか）が付けられています。この道具は、港湾作業員が日雇いだった頃に雇用する人足を定めるために使われた、と伝えられます。当時、親方はその日に必要な人数分のロープを輪環に通し、作業員にロープを引かせて輪環内のロープを引いた者がその日の仕事に従事することができた、といいます。親方はくじを引かせる時に、ロープ群を地面に円を描くように投げて引かせていたため、放射状に放たれたロープの形状が“阿弥陀如来像”の背後に付けられた“光背”に似ていたことから“阿弥陀くじ”と呼んだといいます。フェルケール博物館では清水港で使われていた2点のアミダくじを収蔵しています。なお、このアマダくじは港湾の“ロープワーク”で作られたものです。ロープワークとは、ロープの取扱いと結び方のことを指します。皆さんもご存じのように港や船では色々な種類のロープが使われています。耐用年数を過ぎてしまったロープはほどかれて、様々な結び方をされて港湾独特のロープワークが創作されてきました。海上に出た後の船員は時間の余裕がある時に様々なロープを使い、様々な結び方を考案してきました。“アマダくじ”もロープワークのひとつに数えられるでしょう。

港の荷物の積み降ろしのことを荷役といいます。この荷役を人力で行う時に使う道具に手鉤（てかぎ）があります。手鉤は荷物の運搬や魚の扱いなどに使う、櫂の柄の先に鉤形の金属を付けた道具のことをいいます。手鉤には柄が30～60cmと長く、魚や氷を運搬するのに使った“長柄（ながえ）”と呼ぶ種類と、鉤の部分が1～3本に別れ、柄の部分がだんご状になり手の平で包むように握る“独鉈（のんこ）”がありました。長柄の手鉤の中でも鉤の部分が楕円形をしたマグロ用の手鉤は現在でも港で使用されています。また、独鉈は穀物が入った麻袋を担ぐことが多かったといいます。“独鉈”は両手にひとつずつ持ち、「ハ」の字状に袋に刺してかついだといいます。「独鉈」で担ぐと、不思議なことに袋に穴は開いてもふさがるんだ」と入館者の方に教えていただいたこともありました。なお、手鉤は荷役の基本的な道具なので、フェルケール博物館でも重要な資料と考えており、数十種類を紹介しています。また、博物館入口のドアの表面装飾や取っ手部分、敷地内のライトのオブジェにもデザイン化した手鉤を



<アマダくじ>



<手鉤をデザインしたライト>

使用しています。ぜひ、搜してみてください。

※ このシリーズは「フェルケール博物館」について寄稿によるもので、今回は連載3回目です。

橋原 靖弘（ちんばらやすひろ） 1,962年 藤枝市生まれ。フェルケール博物館 学芸部長

海とみなとの相談窓口



全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれみなと

0120-497-370

受付時間: 9時30分～12時、13時～17時(土・日、祝祭日は除く)

☆携帯電話・PHSからもご利用できます☆

- ・海やみなとの利用に関すること
- ・総合的な学習時間に関すること
- ・みなとの構想や計画に関すること
- ・海洋土木技術に関すること
- ・みなとの防災に関すること

その他、海とみなとに関することは何でもお問い合わせください

■本紙に関するお問い合わせ先■

清水港湾事務所 企画調整課

堀池・西村 Tel. 054-352-4148

ご意見ご感想をお寄せ下さい。

pa.cbr-shimizukouwan@mlit.go.jp

